



公園に向かう時は小雨でしたが開始時刻には止んで風もあまり吹かず観察会日和になり、終わる頃には薄日が差してきました。春を探しながら公園を歩きました。ツグミが地面に降り獲物を探しながら跳ねていきます。ソメイヨシノを始め冬芽が膨らみを増し、ハナノキの雄花やアセビが咲き始めています。春の蛾も増え、ヤマガラやウグイスの声も聞こえてきました。



**ソメイヨシノつぼみ膨らむ**  
膨らむ力が芽鱗を押し分け花芽が今にも開き始めそうです。



**ベニバナトキワマンサク**  
常緑樹の植栽です。リボンのような花弁は4枚。遠目に見ると赤みがかって見えます。



**ヤマトクサカゲロウ**

背面に赤みがかった筋が見えます。成虫で越冬するので、春を感じて出てきたのでしょう。幼虫はアブラムシなどを捕食します。



**チビコモリグモ**

体長4mmくらいの小型のコモリグモの雌です。卵を袋で包み、袋を尾端に付けて移動します。産まれた子グモは親の腹の背側に移動します。それを見ると、子グモを守る習性があるのがよく分かります。

**水の中の生きもの2種**



**ヌカカの幼虫**

上側の茶色い部分が頭で、体に節が見えました。体長4mmほど。3mmほどの小さな蚊になります。



**オニヤンマのヤゴ**

秋に水路上を飛んでいるのを見ました。雌は飛びながら水面に垂直になるように姿勢を保ち尾端を泥や砂の中にさし込んで産卵します。幼虫期間は2~4年なので、大きさの違うヤゴが見つかります。



左：ヒキガエル死骸 右：産まれたばかりの卵 雌と思われるヒキガエルが死んでいました。かみ傷はありませんでしたが裏返すと血がにじんでいました。雄が雌に強い力で抱きつきながら産卵するようです。繁殖行動中は複数の雄が争いながら強い力で雌に抱きつくのでその時に怪我を負ったのかもかもしれません。ヒキガエルは産卵場所が減り続けています。



アサヒエビグモ 体長4センチくらい。カイツカイブキを揺すつたら落ちて来ました。葉の間で休む小昆虫を狙っていたようです。



クチベニタケの頭部



頭部は10センチくらいでその下には2割ほどの柄が付いていました。指先で押すと口紅のような所から白い胞子が出ていきました。自然には雨粒が当たると胞子が飛び出します。



タチヒダゴケ

ケヤキなどの樹皮に付いていた直径15センチくらいの苔です。湿り気があるので緑色が鮮やかでした。葉の間に見える玉のようなものは蒴(さく)で、この中で胞子が作られます。乾くと葉は閉じられます。



アセビ 紅白並んでいました。有毒成分が含まれるので馬が食べるとふらつくそうで、馬酔木と表記します。